

内外の市場に提供する当社製品の機能・特性を  
しっかりと見つめ、環境保全、社会インフラの補修・補強など  
社会に貢献できる事業活動を推進します。



### 抜本的な補修が必要な時期に 入りつつある社会インフラ

東日本大震災は日常生活における社会基盤の脆弱さを教えるものでした。特に原子力発電所の事故によって、電力で支えられていた私たちの暮らしのありようにも、意識の変革が求められるようになりました。

一方で、2012年12月に高速道路のトンネル内で天井板のコンクリートが約130mにわたって崩落し、多くの死傷者がでた事故は、また別の意味で私たちに社会インフラの安全性に対する認識の転換を迫るものであったといえます。

わが国が戦後復興期を終え、高度経済成長時代に移行したのは1960年代のことです。この時期には全国各地で道路や橋梁、トンネルなどの構造物が多数建設され、急速に社会インフラが整備されました。つまり、ほとんどの構造物は建設後から半世紀という時間を経ていることになり、補修などの面で抜本的な取り組みが必要な時期に入っているといえます。

### 大型鋼構造物の長寿命化と 環境問題への貢献

社会インフラを構成している大型鋼構造物の建て替えには莫大なコストと時間がかかるため、補修や補強による維持管理を行うことで長寿命化が図られています。その中で橋梁や各種プラント設備などの鋼構造物を腐食から護り、美観を維持する役割を担っているのが重防食塗装です。

このたび当社が開発した「DNT水性重防食システム」は、防食下地から上塗塗料まですべてを水性塗料としたもので、従来の溶剤形重防食塗装システムと同等の塗膜性能を発揮して、大型鋼構造物の長寿命化を支える画期的なものです。これまで大型鋼構造物分野では、水性塗料の適用が遅れていましたが、「DNT水性重防食システム」の開発により、塗料中のVOC（揮発性有機化合物）を大幅に削減することができました。

一方、鋼構造物における塗膜の健全度および塗膜下金属の

腐食状態を診断する塗膜下金属腐食診断事業を、2013年1月に開始しました。この事業を通じてユーザーに最適な塗装仕様を提案し、鋼構造物の安全性の確保、計画的な維持管理、さらにはLCC(ライフサイクルコスト)の低減にも貢献していきたいと考えております。

防食性能や景観性の観点から防食塗料は秀でており、今後も当社は高品質で多用途に展開できる防食塗料の開発を通じて、わが国の社会インフラを支える構造物の長寿命化を実現し、塗料メーカーとして持続可能な社会構築の一翼を担ってまいります。

## 塗料メーカーが果たすべき「護り、彩る」という使命

塗料の役割は構造物を保護するだけではありません。

塗料本来が持つ機能とは、暮らしや社会の中でさまざまなものを塗装による塗膜で永く護り、色彩設計で日々の暮らしを彩り、人びとの心に楽しみと安らぎ、心地よさを提供するものであるといえます。この「護り、彩る」ことで社会に貢献することもまた塗料メーカーに与えられた大切な使命です。

昨年完成した東京湾の港湾機能を高める「東京ゲートブリッジ」(2012年2月に開通)に、当社製品の鋼構造物用ふっ素樹脂塗料「Vフロン#100H」が採用され、また首都における新しいランドマークとなった「東京スカイツリー<sup>®</sup>」(2012年5月に電波塔・観光施設として開業)には、100年間の美観維持をめざして同じく当社の重防食塗装用厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」が全面的に採用されました。

これらの構造物は、「豊かで快適な環境作り」をテーマとし、塗料・塗装を用いた建築物・構造物におけるカラープランニングのオープンコンペ「グッド・ペインティング・カラー」の新築部門で最優秀賞(東京ゲートブリッジ)、優秀賞(東京スカイツリー<sup>®</sup>)をそれぞれ受賞しました。

とくに東京ゲートブリッジに対しては「周辺環境から選定した色をトラスと桁に使い分け、特徴的な形状を背景から程良く浮かび上がらせている」「橋梁特有の景観特性を生かした質の高い色彩計画である」と評価され、周辺環境への調和と

美観創造という塗料メーカーとして当社が取り組む「護り、彩る」という企業理念を体現したものとなりました。

## これから私たちが取り組むべきこと

もちろん、社会的な存在である企業としては「護り、彩る」というレベルにとどまることなく、事業活動の全領域において環境保全の取り組みを推進することも求められます。

それに応えたのが、たとえば環境に与える負荷が大きいだけでなく、深刻な大気汚染を生むVOCをゼロにした水性塗料「ノボクリーンシリーズ」、作業に従事する人の安全こそが最優先であるとして開発した重金属フリーの「グリーンシリーズ」、高い遮熱効果によって省エネを図り、ヒートアイランド現象の緩和をめざす遮熱塗料「エコクールシリーズ」など一連の商品開発でした。

塗料事業以外においても、業務用大型インクジェットプリンター向けにVOCの排出量が極めて少ない水系インクを発売するなど、環境性能に対する高いニーズに応える製品開発に取り組んでいます。照明機器事業においては、東日本大震災により電力供給体制が不安定となり、国内全体で節電が強く意識される中、節電効果が大きいLED照明分野への拡販に注力しています。

また蛍光色材事業では、蛍光塗料の特性である高視認性を生かした用途開発に取り組み、衣料品や安全・防災に貢献しています。

当社は今後とも提供する製品・サービスを通じて、社会的要請である環境保全、社会インフラの補強・防災に貢献することを使命として、全社一体となった事業活動により持続可能な社会の実現をめざしてまいります。

今後ともご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 い わ さ と し じ ろ う  
**岩浅 壽二郎**